

## 出展レポート

2019年11月26日  
マクセル株式会社  
光エレクトロニクス事業本部  
AIS事業部

### マクセルが「第46回東京モーターショー2019」に出展、車載関連製品を展示

10/24(木)～11/4(月・祝)、東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催された「第46回東京モーターショー2019」に、マクセル株式会社(以下、マクセル)が出展しました。マクセル単独としては初めての東京モーターショーへの出展となります。マクセルブース内では車載向け映像機器「SuperARHUD\*1」を搭載したデモカーを展示し、お客様に体験してもらうことで、マクセル車載製品の認知度アップに大きく貢献できたと考えています。

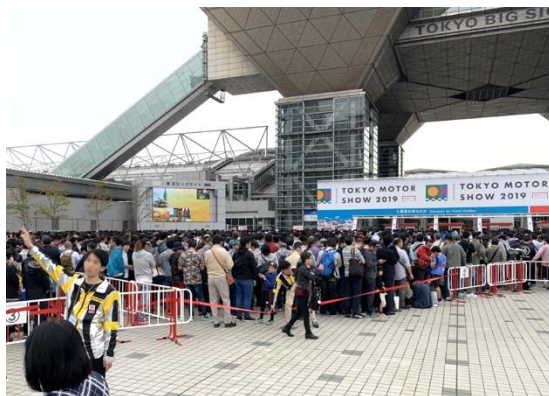
\*1 SuperARHUD: Super Augmented Reality Head Up Display、スーパーAR(拡張現実)ヘッドアップディスプレイ。

#### 展示会概要

- ・名称: 第46回東京モーターショー2019(主催: 一般社団法人 日本自動車工業会(JAMA))
- ・会期: 2019年10月24日(木)～11月4日(月・祝)
- ・会場: 東京ビッグサイト(青海・西・南展示棟)、MEGA WEB、シンボルプロムナード公園など
- ・概要: 「OPEN FUTURE」をテーマに、総勢192企業・団体が参加し、1,300,900人が来場
- ・出展品: 車載向け映像製品搭載のデモカー、車載向け電池

#### 出展レポート

今回の「第46回東京モーターショー2019」は、従来の有明エリアに青海エリアを加え、2ヶ所をつなぐ「OPEN ROAD」で構成された新しいスタイルとなりました。開催エリア拡大もあり、来場者数は前回・第45回の2倍近い約130万人となりました。



東京モーターショー入場の列



マクセルブース。プロジェクター3台で三角面に動画を投影

有明エリア・西展示棟のマクセルブースは部品部門の端に位置していたにもかかわらず、期間中約 6,000 人のお客様が来場されました。マクセルが車載事業に取り組んでいることに、多くのお客様が驚いた様子で、関心を持っていただいたようです。

マクセルブースでは、ナビゲーション情報やアラート情報などをフロントガラスに投写して、実際の風景に重ねて表示することにより、運転者の焦点移動、視点移動を最小限に抑えることのできる「SuperARHUD\*1」などを紹介しました。実車にて体験できるデモを実施したところ、長い列ができ、約 30 分待ちとなったことも。

プロジェクター開発で培ったマクセル独自の映像技術により、大幅な小型化を図った装置から大型映像を投写できるという他社にない優位性が認知されたのではないかと思います。



デモカー体験に列を作る来場者



デモカー体験の様子

なお、初日の 10/24(木)に、「SuperARHUD\*1」が、「2019 年”超”モノづくり部品大賞」「モビリティ関連部品賞」(モノづくり日本会議/日刊工業新聞社主催)を受賞したことが公式発表されました。発表に合わせてブース内に受賞パネルを設置し、来場者に強くアピールすることができました。また、会期中、多くのメディアの方々も来場されました。(主な掲載実績:日刊工、電波、神奈川など)

社内外の多くの方々にご協力・ご支援いただき、充実した展示ができました。国内大手企業からの引き合いもあり、今後のビジネスにつなげていきます。

これからも、このような機会を利用して、マクセルの車載製品/技術の認知度向上を図っていきます。

以上